

道徳科におけるグループ学習とは

今、主体的・対話的で深い学びを目指して、各学校では、授業改善が図られています。その中の手立ての一つがグループ学習を取り入れることです。道徳科においても、たくさんの先生がグループ学習を取り入れていますが、効果的に活用されているでしょうか。グループにはなりますが、全然友達の話聞いてなかったり、声や態度の大きい子が一人で意見をまとめてしまったりしていないでしょうか。また、きちんと話しているグループとすぐ終わってしまって黙っているグループがありませんか。

そもそもなぜ、グループ学習をするのでしょうか。教師がそれを意識することが大切です。グループ学習の目的は、意見を一つにまとめるか、各自の意見を情報交換するのか、どちらかです。ただ、4人集まって意見を一つにまとめるのは短時間では難しいことです。ですから私は、まずは、互いの考えを聴き合うことから始めるのが大切だと考えます。互いの考えを聴き合う習慣がしっかり身についた子どもたちが、次のステップとして合意形成、意見を一つにまとめる話し合いに移行するのです。

「聴き合い学習」は、意見をまとめるのではなく、互いの違いを認め合う学習です。ですから、自分の考えが変わらなくてもよいのです。より自分の考えを確かなものにするための学習です。ただ、自分が友達の意見を聞いて納得したときのみ変わります。

さらに、単なる情報交換ではなく、しっかりと話し合いのルールを決めて行うことが大切です。司会や話す順番、聴き方、感想の言い方など共通理解した上で、どのグループも同じようにグループ学習ができることが大切なのです。

みなさんも「聴き合い学習」を取り入れて、子どもたちが主体的に取り組む授業を作るきっかけになればよいと思います。

尾高 正浩（千葉市立轟町小学校校長）

問題解決

自分の考えをもつ

グループで話し合う

全体で話し合う

道徳科におけるグループ学習とは ～聴き合い学習のすすめ～ 小学校編

日文 教授用資料
令和2年(2020年)7月20日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本資料は令和2年(2020年)度版小学校道徳科内容解説資料として扱われます。
本書の無断転載・複製を禁じます。

CD 33519

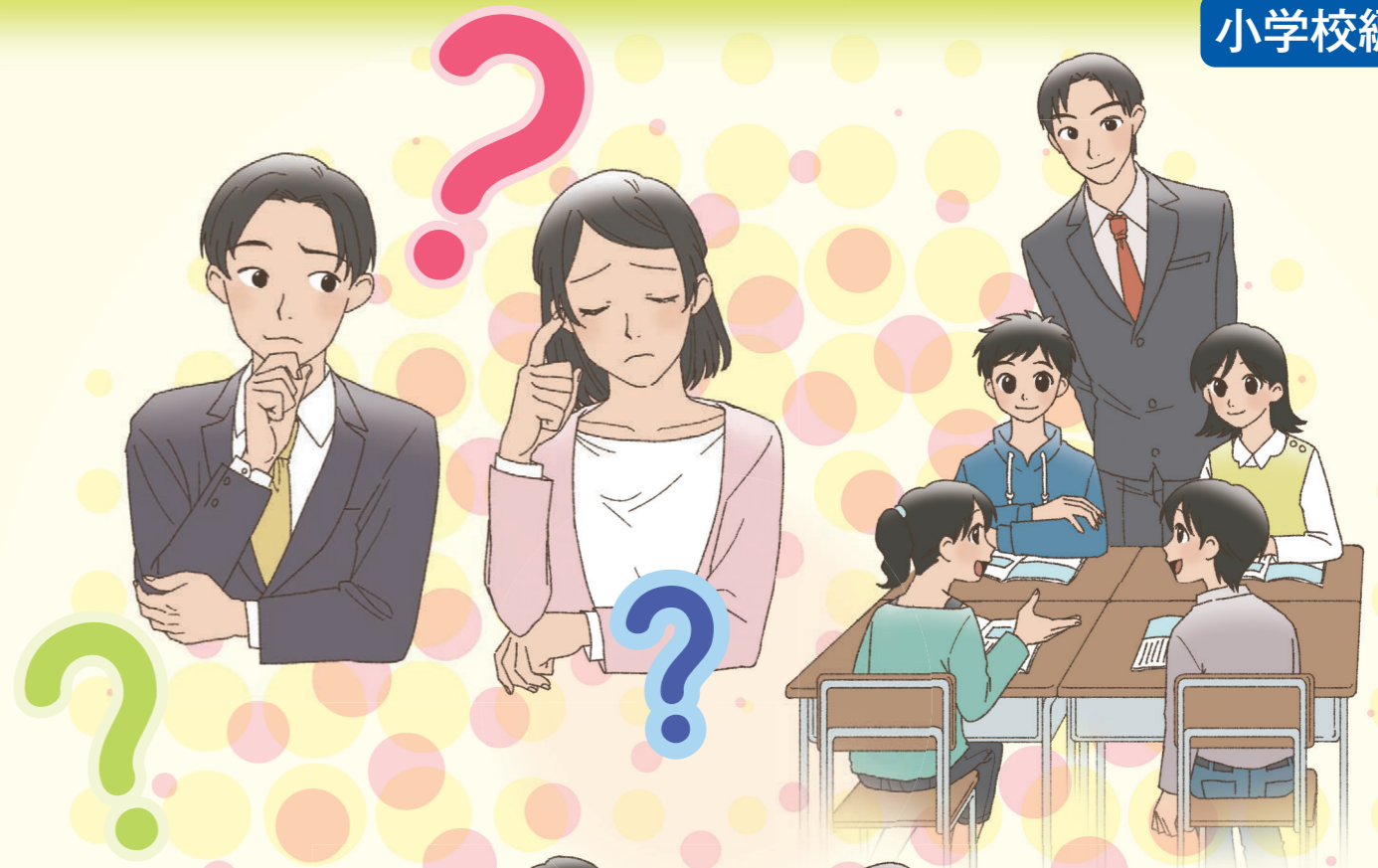
日本文教出版 株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

道徳科におけるグループ学習とは ～「聴き合い学習」のすすめ～

小学校編



グループ学習とは……



主体的・対話的で深い学びとは？

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日本文教出版情報
詳しくはWebへ!

日文 検索



未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

Q

みなさんは、道徳科のグループ学習 どうしていますか。

先生「では、グループで話し合ってみてください。」



パターン①

互いのノートやワークシートを読み合って終わりにしてしまう。



パターン②

順番に自分の考えを言って終わりにしてしまう。



パターン③

何人かの生徒だけで話し合っ、ホワイトボードに班の考えをまとめてしまう。



このようなパターン多くありませんか。
そんなときにおすすめするのが「聴き合い学習」です。

「聴き合い学習」とは

グループでの話し合いの目的を、意見を一つにまとめるのではなく互いの違いを認め合うことにおくのです。

そのためにはまず、ワークシートに取り組む時間の確保です。ここでしっかり自分の考えを一人一人にもたせます。次に、グループでの話し合い活動をルールに従って行うことです。

そこで、グループでの互いの話す声が聞きやすいように、また互いの考えを十分聞くためにグループの人数は4人以下とします。子供は人の話を聞くのが苦手です。話すことが苦手な子がせっかく一生懸命話しているのに、途中で何か言ってしまいがちです。それによって話している子が自信を失い、話せなくなったり意見を変えてしまったりするのです。

そこで、友達が話しているときは、その子の顔を見て話し終わるまで口をはさまない。納得するときはうなずいて聞くようにする。そうすることで、「私の話を聞いてくれている。」と安心感をもつことができ、主体的に意見を言うことができるのです。

そして話が終わったら、聞いている子は、全員が共感的な感想を返すのです。それを人数分繰り返します。

4人グループ〔A B C D〕の場合

- ①司会を決める D
- ②司会が話す順番を決める A→B→C→D
- ③Aが発表する
- ④「私は、……」
- ⑤聴いている人は全員（BCD）感想を言う〔否定しない、共感的な感想を言う〕
- ⑥Bが発表し、繰り返す。（C、Dと順番に発表する。）
- ⑦「聴き合い学習」の後は全体で話し合う。

④「私は……」と発言している



⑤「聴き合い学習」をしている



※全体で話し合う際は、「どんな意見が出ましたか。」ではなく、「『聴き合い学習』をして、これは良い考えだと思った友達の意見を聞かせてください。」と投げかけるとより効果的です。

1 3年生の授業

教材 「たっきゅうは四人まで」

(日本文教出版『小学どうとく 生きる力 3』p.148～151)

あらすじ

主人公のしゅんたちが放課後にスポーツセンターへ卓球をしに行く約束をする場面から始まります。友達のおるが「仲間に入れてくれないか。」と言うが、しゅんは「4人まで」と断ります。しかし、しゅんはその後卓球を楽しめません。友達とのよりよい関係を築いていくためには、友達の立場に立って考えることが必要であることに気づかせることができる教材です。

ねらい

友達のことを大切にできないときの後ろめたさについて深く考えることを通して、友達と互いに信頼し、助け合おうとする心情を育てる。【B 友情, 信頼】

導入

友達とトラブルになってしまうことはありませんか。

展開

①「なかまに入れてくれないか。」と声をかけてきた、とおるの願いを、しゅんはどうして断ったのでしょうか。

★教材前半部分を読んで (p.149の12行目まで) から発問します。ダブルスの人数、時間、とおるとの関係などしゅんがおるの願いを断った理由を押さえます。とおるの気持ちを考えさせ、しゅんがおるに対して思いやりがもてていないことに気づかせます。

②「なんとも言えない気持ち」とは、しゅんはどんな気持ちでしょう。

★教材の後半部分 (p.149の13行目からp.150の8行目まで) を読んで、しゅんととおるの友達への関わり方を比較し、しゅんの自分のしたことへの後悔の気持ちを考えさせます。

③このあと、しゅんはおるに対してどうしたらよいのでしょうか。

★ワークシートに自分の考えを書かせます。

●グループ (3人か4人) になって聴き合い学習を行う。

- ・机を移動し体の向きを確認します。
- ・司会、話す順番を決めて、話し始めます。
- ・発表する人の目を見て聴くようにします。
- ・教師は、うまく進んでいないグループに行き、助言します。
- ・すべてのグループが聴き合い学習を終えたことを確認してから、全体の話し合いをします。

④友達と仲良くするためには、どんな心をもてばよいのでしょうか。

★とおるへのどんな態度が問題だったか再度確認し、自分本位な考えが原因だと押さえます。

終末

今日の学習を振り返りましょう。

今までの自分、今日の学習で学んだこと、これからの自分について考えます。



3
問題について考えよう。
このあと、しゅんはおるに対してどうしたらよいのでしょうか。



1
はじめに
とおるの願いを、しゅんはどうして断ったのでしょうか。



4
問題の解決を目指そう。
友達と仲良くするためには、どんな心をもてばよいのでしょうか。



2
問題をつかもう。
「なんとも言えない気持ち」とは、しゅんのどんな気持ちでしょうか。

2 5年生の授業

教材 「真由、班長になる」

(日本文教出版『小学道徳 生きる力 5』p.76～81)

あらすじ

学習船「うみのこ」での活動を題材にした教材です。班長になった真由は、意欲的に自分の役割を果たそうとするが、うまく班をまとめることができません。そこで再度、班長としての役割とはどのようなものか考えます。周囲の人のために気を配り、仲間のために行動したことで班がうまくまとまっていき、自分の役割を果たすことができる、という内容です。

ねらい

よりよい学校生活・集団生活とは何か、そこで自分は何をすべきか考えることを通して、その集団の全ての人々が幸せな気持ちで過ごせることを目指そうとする態度を養う。【C よりよい学校生活、集団生活の充実】

導入

班長になって悩んだ経験を発表しましょう。

展開

①真由はどんな気持ちで班長をしていたでしょう。

★班長の役割を自覚して行動しようとする真由の心情、考えを時系列で追えるように発問します。

②にっこり笑い返した真由はどんな心の大切さに気づいたのでしょ。

★板書を使いながら、1日目と2日目とを比べ、どのような心を大切にすると、班のために役に立つのか考えさせます。

③集団活動をするときは、どのような気持ちをもつことが大切なのでしょう。

★集団活動をするときに大切な気持ちをリーダーの立場とメンバーの立場で考えさせます。

★考えた気持ちをグループで聴き合います。

- ・自分の考えをワークシートに書かせます。
- ・自分の考えた気持ちを発表します。なぜそう考えたか、理由を話させましょう。
- ・グループから共感的な感想をもらいます。グループで話し合う際は、司会や話す順番、感想の言い方などをきちんと決めておくことが大切です。

● 集団活動をするときに大切な気持ちをクラス全体で話し合う。

- ・グループで話し合ったことをもとにして全体で話し合います。
- ・グループで話し合っ、これは良い考えだなと思った意見を発表するようにします。

終末

今日の学習を振り返りましょう。

今までの自分、今日の学習で学んだこと、これからの自分について考えます。

真由、班長になる
学習の手引き

「集団でのやくわり」について
考えてみよう。

1 問題をつかもう。



● 班長として、班をまとめる真由に必要な心がけはどんなことだったのでしょうか。

2 自分なりに考えよう。



● 真由はどのような気持ちや思いで班長をしていたでしょう。

3 問題について話し合おう。



● にっこり笑い返した真由はどんな心のたいせつさに気づいたのでしょ。

4 問題を解決するときには、どうやって話し合おう。



● グループで話し合ったことをもとに、「集団でのやくわり」を果たすことについて、どんな考え方がたいせつか、学級全体で話し合ってみましょう。

見つけよう
まかせよう

集団の役に立つようになるには、どのような心がまえがたいせつなのだろう。

